

横浜市内福祉施設への芸術活動に関する調査結果報告書

平成 28 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 S T スポット横浜

今後の障害のある方の芸術活動の取組の参考とするため、横浜市内の福祉施設を対象に芸術活動の実態並びに意識の調査を行いました。調査期間は、2016 年 1 月 7 日～1 月 31 日までとし、横浜市内の福祉施設 1,258 か所に調査票を配布、338 か所から回答がありました。(有効回答率：26.9%) 本調査は、文化庁委託事業として、NPO 法人 S T スポット横浜が実施した平成 27 年度戦略的芸術文化創造推進事業「障害と身体表現をめぐる研究会」の一部として行いました。

主催：文化庁、NPO 法人 S T スポット横浜

企画制作：NPO 法人 S T スポット横浜

協力：横浜市健康福祉局、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール、特定非営利活動法人スローレーベル

お問合せ：NPO 法人 S T スポット横浜

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15 横浜 S T ビル地下 1 階 TEL. 045-325-0410 FAX. 045-325-0414



回収結果（総回答数 338、総送付数 1,258、回答率 26.9%）

サービス種別 (右記のほか、 種別不明の回 答 2)	種別	障害者グループホーム	障害福祉サービス事業所	地域活動支援センター	障害者地域活動ホーム
	回答数	114	109	75	16
	送付数	646	364	192	41
回答率	18%	30%	39%	39%	
種別不明の回 答 2)	種別	障害者支援施設	精神障害者生活支援センター	障害児施設	多機能型拠点
	回答数	9	8	4	1
	送付数	23	18	19	2
回答率	39%	44%	21%	50%	

横浜市南区別 (右記のほか、 区名不明の回 答 1)	区名	鶴見	神奈川	西	中	南	保土ヶ谷
	回答数	15	25	7	22	16	24
	送付数	53	85	21	74	58	127
	回答率	28%	29%	33%	30%	28%	19%
横浜市西区別 (右記のほか、 区名不明の回 答 1)	区名	磯子	金沢	港北	戸塚	港南	旭
	回答数	22	10	19	17	9	37
	送付数	55	45	69	62	42	157
	回答率	40%	22%	28%	27%	21%	24%
横浜市北区別 (右記のほか、 区名不明の回 答 1)	区名	緑	瀬谷	栄	泉	青葉	都筑
	回答数	15	17	12	40	4	26
	送付数	53	41	46	127	33	110
	回答率	28%	41%	26%	31%	12%	24%

集計結果（選択式回答）

※無回答については掲出せず。

1. 施設として、余暇活動や作業等で現在、文化・芸術活動に取り組んでいること、もしくは取り組んだことはありますか。	はい	いいえ					
	183	149					
	54%	44%					
（上記で「はい」と答えのうち）							
	絵画	版画	彫刻	書	音楽	ダンス	演劇
	85	3	6	46	107	65	9
	18%	1%	1%	10%	22%	13%	2%
1-1. それはどのような内容ですか。（複数回答可）	伝統芸能	写真	映像	手工芸	陶芸	その他	
	4	12	12	85	31	17	
	1%	2%	2%	18%	6%	4%	
1-2. 文化・芸術活動全体では、どのくらいの頻度で取り組んでいますか。（複数の文化・芸術活動を行っている場合は、全体についてお答えください）			毎日	週1回程度	月1回程度	3ヶ月に1回程度	年に1回程度
	35	54	64	11	19		
	19%	30%	35%	6%	10%		
1-3. 取り組む際に関わる人は誰ですか。（複数回答可）			施設職員	家族	外部講師（アーティストなど）	その他（ボランティア、地域の方など）	
	157	6	95	24			
	56%	2%	34%	8%			
1-4. 活動に関する予算はありますか。			ある	ない			
	99	72					
	58%	42%					
（活動に関する予算がある場合は）全体で年間どのくらいですか。			10万円未満	10万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円以上	その他
	41	17	7	8	26		
	24%	10%	4%	5%	15%		
1-5. 活動資金はどのように調達していますか。			施設	参加者が負担	ボランティアで行っているので特にない	その他（助成金など）	
	142	33	13	8			
	72%	17%	7%	4%			
1-6. 制作した作品等を発表する機会がありますか。			ある	ない			
	133	51					
	72%	28%					
1-7. 芸術活動に取り組むうえで、相談先や協力者（他の団体や企業、NPO、アーティスト、コーディネーターなど）とのつながりありますか。			ある	ない			
	87	90					
	49%	51%					

	福祉施設	企業	NPO	学校			
	33	1	13	9			
(つながりがある場合) どのようなつながりがありますか。(複数回答可)	25%	1%	10%	7%			
	アーティスト	コーディネーター	その他(区内文化施設など)				
	50	7	19				
	38%	5%	14%				
<hr/>							
2. 芸術活動に対して、施設として興味・関心がありますか。 ※理由の自由記述は、別頁参照	ある	ない	その他				
	192	122	24				
	57%	36%	7%				
<hr/>							
(上記で「ある」と答えのうち)	絵画	版画	彫刻	書	音楽	ダンス	演劇
	112	21	10	51	119	87	28
2-1. どのような芸術活動に興味・関心がありますか。(複数回答可)	17%	3%	2%	8%	18%	13%	4%
	伝統芸能	写真	映像	手工芸	陶芸	その他	
	22	41	23	90	52	7	
	3%	6%	3%	14%	8%	1%	
<hr/>							
2-2. 芸術活動に取り組むうえで、地域や他団体との交流・連携を望みますか。 ※理由の自由記述は、別頁参照	はい				いいえ		
	165				22		
	86%				11%		
<hr/>							
3. 芸術活動に取り組むうえでの課題はなんですか。(複数回答可) ※具体的な課題内容は、別頁参照	活動時間	活動場所	活動内容	資金	指導者確保	実施(人員)体制	
	152	124	122	107	141	153	
	15%	13%	12%	11%	14%	15%	
	ボランティア確保	発表	情報・交流	作品・作家の権利擁護	その他		
	87	44	38	12	11		
	9%	4%	4%	1%	1%		
<hr/>							
4. 地域で行われるアートイベントに、施設として参加することに興味・関心がありますか。	参加している	興味がある	興味がない				
	40	164	120				
	12%	49%	36%				
<hr/>							
5. 福祉施設へ芸術家が出向き、ワークショップ型の創作・表現活動を行うことができる場合、貴施設での実施を希望しますか。 ※希望する活動内容は、別頁参照	はい				いいえ		
	111				197		
	33%				58%		
<hr/>							
6. 平成26年8～11月に開催された「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014」について知っていましたか。	参加した	知っていた	知らなかった				
	3	96	234				
	1%	28%	69%				

集計結果（自由記述回答）

2. 芸術活動に対して、施設として興味・関心がありますか。

「ある」と答えた理由

【利用者側】

- ・作品が完成する様子を利用者に視覚的に伝えられる。
- ・一緒に活動を行うこと、感覚的な刺激を活動内で提供できる。
- ・利用者が楽しめる活動をしたい。
- ・多くの障害者福祉施設が「就労支援」を中心に据えている中、働けない（多くの）障害者への支援がおざなりになっているように思える。芸術、と固く構えなくても、障害者が、生活を豊かにする芸術的な活動を楽しめるように支援することには大きな意義があるように考えている。何よりも、生活の中の楽しみを見つけること、就労すること以外で生きがいを見つけてもらうことも、福祉のやるべき仕事だと考えている。
- ・陶芸製品は利用者が自由に制作するので一品物が多く、中には素晴らしいものも多々ある。そういう意味では次に出来る作品に興味を惹かれる。
- ・入所者の重度・高齢化が進む中、日中活動や余暇をどのように過ごせるかは大きな支援のテーマとなる。
- ・利用者が芸術を通して表現力や想像力を豊かにできる。
- ・障害を持つ利用者は、特に感受性が豊かで、内面に秘めた才能があると日頃から思っていた。職員として採用された翌年からこのような活動に少しずつ導入することができるようになって来て、今では外で発表できるまでに成長してきた。
- ・熱中できる時間が提供できる（好きなことには熱中できる）。
- ・通所者にいろんな分野のことを体験させることは重要だと考えている。
- ・リハビリとして、又、生きがいづくりとしてできることを増やしたい。
- ・個々の自由な感性を伸ばしていきたい。
- ・余暇支援の中で行っており、生活の豊かさにつながるものと考え。
- ・利用者に興味がある者が多い。
- ・利用者の可能性や興味・関心を高めたい。
- ・作業だけでなく、余暇として、利用者の得意（好き、興味）なものを見出したい。作業に移行できればなおさらよい。
- ・利用者の夢の創造。
- ・身体障害の利用者が多いが、表現したいことはみんなたくさんある。絵を描いたり、詩を書く利用者がいる。詩を書く人の詩に曲をつけて歌にしようという取り組みもある。
- ・日常生活ではあまり感じる事の出来ない感覚を刺激したり、心を豊かにしてくれる。
- ・障がいのある人の芸術性にはさまざまな可能性を感じる。
- ・利用者の障害状態から運動が難しい方が多い。
- ・情操（を養う）。

- ・本人達が望む。
- ・利用者の余暇や経験を広げたい。
- ・能力、興味、楽しさを支援して行きたい。
- ・入居者が協力して取り組んだり、休日などの余暇活動になったりしないかと考えている。
- ・利用者の年齢が高くなってきた。もう「仕事中心」ではないライフステージと考えたとき、生活の場での「趣味」の活動の提供も必要だと思っている。
- ・音楽やお芝居を（TVのお笑い等）関心をよせている方が多いのでコンサートや観劇など皆様と行けると良いなと思っている。
- ・趣味で絵や音楽を行っているメンバーが多く在籍している。
- ・仕事とは違う体験ができる。体を動かしたり、思い描いたり、自由な発想により気持ちいいと思ってもらえたら。
- ・表現の場が必要。受け身になるだけでなく、自ら発信する機会にもなる。
- ・利用者の潜在的な能力、可能性を引き出されることを期待する。
- ・入居者の方が関心を持っているので、機会があれば是非習う機会、発表する機会を作ってあげたい。
- ・自宅と施設の利用者も多く、趣味や活動の場を広げるきっかけになればと思う
- ・障がいをもつ方が、自身の豊かな感性や得意稀な個性を生かした活動を仕事や生き甲斐とし、社会にも発信していく。
- ・手先の器用さ、想像力の増進に繋げたい。
- ・創作を作業として行っているため、利用者の特性に合わせた作業を考える必要がある。
- ・利用者の方の年齢もあがってきており、豊かな人生を考えた時に製品作りとは違った視点での活動が大切と感じている。
- ・精神障がい当事者の、意欲や生きがいにつながるとともに、地域の人と一緒に活動しやすい側面から、お互いの理解を促進できる。
- ・入居者の精神活動を高めるために有効と考えている。（地域高齢者の介護予防、入居者家族の余暇活動支援に有効）

【施設、スタッフ側】

- ・スタッフが教えているだけなので、広がりが少ない。絵を描くだけではなく、いろいろやってみたい。
- ・自立製品の開発拡大。
- ・いつも同じような活動内容になってしまうので、視野を広げバリエーションを増やしたい。
- ・利用者の作品を商品化し啓発活動の1つとして広げたい。
- ・作業として兼ねているために関心はある。
- ・担当者（記入者）が、絵画制作に関心がある。

- ・作業以外に室内でメンバーと共に取り組める。
- ・芸術活動に興味のある入居者の参加や作品づくりに協力している。
- ・スタッフは皆素人であるが、素人から見ても、ある種の芸術的センスを持っていると思われる利用者がいるので、芸術性が伸びる支援ができる人に巡り逢いたいと考えている。
- ・入居者が芸術活動に興味を示した時には、芸術活動に取り組みたい。
- ・芸術活動を通じた支援は利用者の新たな一面を垣間見たり、地域の人々との交流の機会になり得たりと、様々な可能性がある。
- ・仕事中心では施設としてうまくいかない部分が多い。
- ・芸術活動（製作等）はたくさんの方が参加できる。
- ・興味、関心はあるが、作業中心の活動プログラムを行っているのと、活動場所が足りなく、活動内容を広げることが出来ていない。
- ・作業以外の時間に取り組める活動を模索している。
- ・職育開発として重要である。
- ・支援員や家族も喜ぶ。

- ・当事者にとって自己表現が欠かせないものであるだけでなく、支援者や一般の人々にとっても、「〇〇ができる」「できない」とは違った価値観・視点をもつことができる。
- ・利用者に絵を描く事が好きな方がいるので、施設として何か提供できればと考えている。
- ・法人内に芸術活動を展開する作業所がある。
- ・作業所の一部をギャラリーとして地域の方や障害のある方の発表の場として企画、運営を行っている。障害のある方々の生み出す優れた芸術「アール・ブリュット」に注目し、障害のある方の創作活動を支援するとりくみを行っている。
- ・芸術活動を通して、入居者の日中活動支援ができる機会が作ればという希望はある。
- ・生活支援センターはアウトリーチ支援が主となってきたため来館利用者に向けて、アクセントとなる活動も必要かと思う。
- ・余暇活動をすることで、社会的関心や生活の場を広め、自立に向けたい。
- ・就労施設ではあるが、「仕事ばかりでは」と思っている。

「ない」と答えた理由

【利用者側】

- ・積極的に施設として企画はしないが、利用者から要望があれば考える。
- ・利用者への意識・希望調査等がなされていない現時点では回答困難。
- ・現時点で利用者からの当事業所に対するニーズとして把握していない。
- ・全員共通しての活動は困難。興味のある方は生活支援センターと連携しているのでそちらを利用。
- ・利用者が就労を目標に通所し、仕事に近い実践的な活動を望んでいる。
- ・グループホームなので、年齢、性別、興味、関心、全てバラバラ。
- ・芸術活動に興味がある方は個々に活動している。

【施設、スタッフ側】

- ・通常の活動時間内での取り組みには、時間・人員など無理がある。
- ・障害者グループホームは「施設」ではなく、普通に当たり前の生活を地域でおくる「住まい」なので、「施設として興味・関心」はない。入居者各自の自主性に任せたい。
- ・施設の活動目的が地域生活訓練。利用者のほとんどの方

- は精神病院に入院していた方で、これからの社会生活を目指し、寮生活をおくり、料理や掃除、洗濯、対人関係、金銭管理、服薬、通院などを練習している。広く考えて、芸術活動も個人的な創造行為や鑑賞などは生活の一つだが、利用期限が決まっている施設でできる事の優先順位はやはり、料理・・・ということになる。ちなみに精神障害について、絵画や音楽などがその治療に貢献していることは事実で、精神科デイケアなど医療の範疇で行われているようだ。当施設の入所者も施設外のそれぞれのデイケアへ通い絵画、陶芸、ダンス、合唱、楽器演奏などの活動をしている。
- ・必要性を感じない。
- ・予算がない。
- ・仕事中心を特徴としているため、全体プログラムではとり入れにくい。個別の相談の中で、展示会などの情報をお伝えしたりしている。
- ・個人に対しては情報提供はしているが事業目的に芸術活動は合致していないために行っていない。
- ・就労訓練のための軽作業、事務作業を行っている。
- ・充てる時間がない。
- ・芸術活動に取り組むみたいとも思うが、現状として利用者の通所としての体制を整えることを優先に考えている。

2-2. 芸術活動に取り組むうえで、地域や他団体との交流・連携を望みますか。

「はい」と答えた理由

【活動を深める】

- ・作品を通して地域の方とコミュニケーションが可能になると考えている。作品について、感想を言ってもらえるだけで作品を通して広がりがあると考えている。
- ・講師にしっかりと教えていただきたい。
- ・既に地域との交流の中で取り組んでいるため、継続していきたい。

- ・他法人や地域とのつながりができ、顔の見える関係になる。
- ・利用者も人に見てもらえる事で大きく成長できる。人前に出れない人が、こういう場面をつくる事で、日常の姿にも影響してくるのを感じる。外との交流の場が年間目標となっており、そのため一回一回の挑戦練習の積み重ねに、張り合いがもてるようになる。

- ・区役所や市営地下鉄、また地域で開催されるバザーでの販売会の実施が、利用者のさらなる意欲を生み、社会参加や就労体験に前向きになっている様子を生で見ている。
- ・職員だけでは限界がある。他の団体とのつながりや地域の方とつながることが大切。
- ・発表する機会があると、その目的に向けて絵を描き始める入居者がいるので、発表できる場は大切だと感じている。
- ・作品に対して多くの人々の鑑賞は大切。
- ・作品を地域の方に見ていただける場所が必要。
- ・地域や他団体との交流や連携があると、活動が活性化される。
- ・地域や他団体との交流により、新しい関係を作ったりモチベーションにつなげられる。
- ・他の施設の方とふれ合うと良い刺激になる。
- ・新たな人のつながりを作ると共に芸術への共感と可能性を見つけられる。
- ・日頃関わりがある職員とのやり取りでは発揮できない利用者の方の個性や潜在的なものを、また違った角度から関わって頂く中で発揮できたり、発見があったりすることである。
- ・メンバーの余暇、楽しみにつながる。

【普及・啓発】

- ・障害への理解は、共に一緒に継続的に活動することが一番だと考えている。
- ・利用者の生き生きとした姿を見て欲しい。忘れかけている大事な事を気付かせてくれる場となる。
- ・工房のことを知ってもらったり、病気、障がいの理解につながるとよい。
- ・地域交流が少ないので作業所とはどのような所なのか、どのような人が利用しているのかを知って頂きたい。
- ・地域の住民に作業所の活動を知っていただく、また理解していただくためにも、1つの作業だけでは限界がある。
- ・地域住民としての権利を守りたい。
- ・芸術活動を地域の方と一緒にやる事で、入居者が地域に受け入れ易くなっていただければと思っている。
- ・施設と地域社会との交流の機会は、地域での居場所づくり、新たな絆、障害の理解の促進など、その恩恵がかなり大きい。
- ・地域交流を通して、障がい理解を深めると同時に、地域社会への参加機会を増やしたい。
- ・相互理解を深めて行きたい。
- ・職員も含め利用者の事を知っていただく。顔見知りになる。
- ・利用支援もそうだが、GHを知ってほしい。
- ・障害者理解の啓発。
- ・地域にグループホームや障害者のこと知ってもらえる。
- ・地域の方に障害者の方を知って頂ける機会になる。

【つながり】

- ・芸術を通し、社会性を増やし、関わり（交流）を作っていくきたい。
- ・今年度移転したので、新しく地域と交流しつながりが持てればと考えている。
- ・地域の方の協力を得たい。
- ・独自で行うよりも拡大する可能性が広がる。
- ・発信する場所や手伝ってくれる人など、地域や協力してくれる方々が必要。

- ・最初は単独で、慣れてきたら地域の方との交流も。
- ・近隣のケアプラザやコミュニティハウスを利用し展覧会を行いたい。
- ・社会とのつながりのひとつとして。
- ・利用者の交流の幅を広げたい。
- ・活動内容にとどまらず、他の内容でも横のつながりがあることが望まれる。
- ・コミュニティーに参加して地域の方と触れ合う場所が欲しい。
- ・他の人と交流してみて、利用者の反応を見てみたい。
- ・地域の中で生きることを理念としている。
- ・いろんな人と出会う機会をつくるために必要なことのひとつかもしれない。
- ・施設職員では限界がある。
- ・利用者も地域の方と関わることを希望されている。
- ・指導者、支援者があった方が理解も深まる。
- ・他団体と協力しないと、規模を大きくできない。
- ・様々な人とふれ合い、人とふれ合う楽しさを知ってもらいたい。人は十人十色であるということを感じてもらいたい。
- ・いろんな方と関わる事は利用者にとっても大切な経験になっていく。
- ・他団体との交流を目的として、芸術活動に参加するのは有効なのではないか。
- ・地域とのネットワーク作りなど重要。
- ・利用されている方々が望むのであれば、地域、他団体との交流を望む。地域の方々に助けていただきながら今現在の生活へと繋がっていると思うので、何かしらのきっかけにより、より多くの方々に利用されている方々を知っていただき、皆さんの社会生活が充実できれば。
- ・活動を通じて、障害者と市民が交流する機会が設けられる。
- ・地域交流を大切にしていきたい。
- ・専門、得意分野を相互に活用し合う。

【情報を得る】

- ・活動の内容を知りたい。発表の場を確保したい。
- ・講師がいないので、教えていただける方と交流したい。
- ・自分たちが外へ出向くことが必要。
- ・専門知識を学べ、利用者も新しい交流を好む。
- ・新しいアイデアや課題の共有、ひろげていくのにつながりの必要性を感じる。
- ・新しいもの、ことを知りたい。
- ・情報交換や、発表の場の確保など。
- ・専門ではないため専門の指導員が居ると良い。
- ・多くの出会いの中から、新たなチャレンジを見つけたい。
- ・他団体の芸術活動鑑賞。
- ・現在、芸術活動をあまりできていないので、交流などを機に、芸術活動の力を入れたいと考えている。
- ・発表の機会が広がる。
- ・今和太鼓を教えてください方、場所を探している。でも障害者の方が習えるところがなかなか見つからない。
- ・発表の場や新しい刺激、キッカケにしたい。
- ・他からの情報や刺激を受けて活動に生かせる部分は取り入れていきたい。
- ・活動のやり方、様子、工夫等について知りたい。
- ・障害のある方の創作を支援するとりくみのあり方の情報を得て参考にしていきたい。

【その他】

- ・自分たちの専門分野（精神障害）の福祉にとどまらず、広い意味での、福祉、まちづくりについて考え実践していきたい。
- ・センターだけで取り組むより、より専門的で良い時間が提供できそうだから。

- ・介護予防活動として、看護・介護・教育の3つの専門グループがそれぞれの効果を規定してプログラムするがグループホーム入居者は重度身体障害者なので相互の交流、効果もあわせて地域との連携は必要。
- ・今のところ、年1回のまつりで十分。
- ・社会的視野が広がる。

「いいえ」と答えた理由

- ・今は特に考えていないが、機会があればそのような交流・連携を持つこともよいかと思う。
- ・調整が難しい
- ・現在来ていただいている先生（アーティスト）で充分。
- ・外出がむずかしい。
- ・関心はあるが、スタッフも少なく、現時点では交流をすすめていく余裕がない。

- ・現状で満足している。
- ・時間的に余裕がない。
- ・いずれは交流・連携を考えても良いと思うが、はじめは慣れている者同士で行う方が取り組みやすいだろうと考えた。
- ・利用者の表現活動、余暇活動としての取り組みなので、広げるのではなく、じっくりと落ち着いて提供したい。

3. 芸術活動に取り組むうえでの課題はなんですか。

具体的な課題内容

【活動時間】

- ・少ない時間の中でやれるものを工夫している。
- ・時間的な余裕が無く、作業優先になっている。
- ・工賃向上のため、作業を中心にしている。芸術活動の大切さは理解しているが、工賃を支払わなければならないこともあり時間が取れない。
- ・作業時間がほとんどで余暇活動にまわせない。
- ・現在の利用者の能力として就労可能な人が多いため、できるだけこのステップに時間を使いたい。
- ・利用者が帰ってくる時間が夕方、活動できるのは夜間しかない。

【活動場所】

- ・活動場所が狭い。
- ・現在未実施である音楽活動について、利用者に音楽が好きなのが、発表できるような機会もあるが、練習の際、音を出せる場所の確保が困難。
- ・芸術活動を行うとして、場所が今のところない。
- ・介助が多いため、広い場所が必要。
- ・視覚に障がいをもつ方も利用されているので、活動場所によっては移動面で困難な場合がある。

【活動内容】

- ・最重度の利用者が多数なのでむずかしい。
- ・障害者施設だという事で指導していただく事がむずかしい
- ・片マヒ、高次脳機能障害の方が多いため、支援が難しい。
- ・利用者の身体状況がさまざまなので施設としての活動としてとらえることが難しい。
- ・障害者の芸術活動に関する評価が低い。
- ・年齢の幅があるため、やれる内容や職員の対応（パートも含む）が難しい。
- ・単発で終わってしまうのではなく、継続した取り組みとして行っていく事の難しさがある。
- ・楽しさを味わうことが目的でそれ以上ではない。

- ・30～40分程度の活動時間内で出来る事を実施しているため、一歩進んだ複雑な内容に着手しにくい。
- ・現在、各自が創作、詩、音楽、絵画などを楽しんでいる。「個人」として参加できる機会などがあれば、入居者に紹介したい。
- ・今まで行っていないため、情報や知識が全くない。
- ・職員の力量不足で創作活動のプログラムを組み立てることが難しい。
- ・芸術活動に関する素養がないため、何をしてよいかかわからない。
- ・利用者全員でのとりくみが難しい。
- ・内部事業所との活動の差を出しているため、全体でのとりくみは難しい。
- ・音が苦手な人、目が見えない人、耳の聴こえない人、年齢差など、求めるものが多岐にわたるため、各々に対応するには人員が不足している。
- ・利用者の興味を引き出すことが難しく感じる。
- ・マナー化している。
- ・芸術活動を行うにあたり、どのように進めたらいいのか皆さんが楽しくできるのかが分からない。
- ・活動内容の情報が少ない。
- ・毎月、定期的に行っているプログラム以外に新たに“何かを”考えるためのアドバイス（知恵）と、利用者の希望をつなぐ場が必要。

【資金】

- ・（地域の方に大勢入ってもらえるような）広範囲の活動の場合、事業所の補助金が使えなくなり、経済的に困ってしまう。
- ・資金面でかなり苦慮している。材料などの経費もかなり必要となる。
- ・謝礼金などが出せない。
- ・予算に限りがあるので、思いきったことはできない。
- ・材料費は参加者負担をお願いしているので安価なものしかできない。

- ・楽器を購入する資金が不十分。
- ・低予算で、障害のことを理解して教えて下さる方が見つかりにくい。
- ・関わる方は数名なので、生活介護事業費を数名の方のために遣うことに抵抗がある。余暇活動でならと思うが、そうすると余暇活動は休日に行われることが多いので職員が休息を取る時間が少なくなったり、超過勤務手当が増大するなどといったことに課題を感じている。
- ・作業のための環境整備は費用がかかる。
- ・低収入の方も多く、お金をかけることが難しい。
- ・重度障害者の取り組みとなり、継続し、費用も低い活動が難しい。
- ・法人から赤字の補填をしてもらっているので、新たな活動は難しい。

【指導者確保】

- ・障害を持つ人が自己表現できる場が必要。独自に活動展開時は見に来てくれる人を集めるのにエネルギーがある。新しい（演劇、ダンス）講師の確保など支援してくれると助かる。
- ・指導者はほぼ職員の縁故のボランティアにたよっている。
- ・ダンス、演劇を指導して下さるボランティアが、どこにきけばわかるのか知りたい。
- ・芸術活動を行うとして、芸術活動を指導して下さる方が今のところいない。
- ・指導して下さる方がボランティアなどであると、取り組みやすい。
- ・GH（ナイトケア）の場面での芸術活動とは何だろうと思っている。指導者の人より、一緒に何かをしてくれる人が求められている。
- ・施設職員では限界がある。
- ・職員のスキルと知識、意欲だと思う。
- ・職員だと適切な助言ができない。
- ・支援者の指導力に限界がある。
- ・教える人が1人もしくは少数だと、その方の都合に合わせる機会が多くなり、欠席だとできないということにもなり、指導者・教えられるスタッフの人数を増やすことが課題。
- ・事業所で創作活動を行う際に、利用者から教えてくれる方がいたら良いという意見があり、現在は職員が教えている。
- ・指導者の情報が少ない。

【実施(人員)体制】

- ・1人でも多くの方にたくさん触れてもらう機会をつくりたいが、介助者の手が足りない。
- ・芸術活動をしても参加者がいない時がある。
- ・職員は、多くの仕事を持っており、人手がなかなか確保できない。
- ・個人や小グループでの活動が多く、職員が関わるのが困難。
- ・教える人や参加していない方の見守りがいなくなってしまう。
- ・作品の管理・保存の仕方、作業所内での他のプログラムや会議の多さ、職員のかかえている事務の多さにより余裕やゆとりをもって時間を確保することのむずかしさ。
- ・職員数が少ないため、体調不良で休むと中止となってしまう活動もある。ある程度、物づくりや音楽活動、絵を描

くことの出来る職員が必要。

- ・メンバーの中の参加者の確保（興味が多様化している為）。
- ・現在職員が不足している為、通常の業務以外の事を行う事が厳しい状況にある。
- ・職員の人員確保も日常のケアもあるため限界がある。
- ・介助が多いため人手が必要。
- ・人員体制が少ない。
- ・今のところ他施設へ作品を見に行ったりはしているが、人手が不足していることや移動が困難で、具体化はできていない。
- ・付添人員の確保がむずかしい。
- ・カルチャーセンター（知的障害者専門）があり、ガイドさんと参加できるとよい。現在は障害者の親が立ち上げて運営をしているが親が高齢になると消滅する。
- ・さまざまな知的障害を持った利用者さんにとって一度に足並みをそろえて課題に取り組む事は困難なため、細かなケアと人員が必要になる。
- ・子どもたちは、平日は通学しているので、余暇支援は土日祝日となる。入所施設はギリギリの職員配置なので、余暇支援は全くできていない。
- ・通所者の人数、障がい種別の多様性から介護（トイレ／入浴／個別対応）の比重が高く、活動そのものに職員が集中しにくい。
- ・芸術活動を行う為には、実施体制の確立が必要。
- ・関わる職員に限られている。
- ・利用者の支援をする人員の確保が困難。
- ・芸術に関わる活動に関心を持つ人は少なくない。又、雰囲気作りのためにも、活動は継続していきたいが、現在の体制では、計画的・安定的な運営は難しいと思っている。
- ・マンツーマンでの取り組みが必要な利用者が多く人員体制の調整が難しい。

【ボランティア確保】

- ・職員だけでは体制をとれない場合もあり、ボランティアを充実したい。
- ・指導してくれているボランティアの方が高齢になっているため、継続できるか心配。
- ・施設としてもボランティアの要請を近隣の大学などへお願いしているが、なかなかやりとりができず、私たちだけでは難しい面がある。

【発表】

- ・発表があると利用者により刺激になる。
- ・作品として完成しないことが多く、商品になり発表や販売になかなかつながらない。
- ・発表会の準備はとても大変。
- ・発表の場が少ない。

【情報・交流】

- ・自主製品としての販路が見つからない。
- ・作品をうまく活用できていない。
- ・対外向けの活路を見出したい。活動が対外的に知られていない。
- ・コーディネーターがいないので、どのように動きをとったらよいか分からない。
- ・こういったことに関わるイベントについて情報を得られると、利用者と共に参加検討ができるので、告知してほしい。

・本来の事業と利用者の対応に時間をとられ、芸術に関する事業の時間の確保が難しく、他の団体との交流が図れない。

【その他】

・作業時間増加、工賃アップにつながる活動内容に見直した結果、今年度で文化的活動は削除した。
・日中活動へ参加し、ホームに帰ってきた時、利用者に余裕があるかどうか。
・当事者から要望が出ればやる。
・芸術活動をやるにあたって、今現在何がやりたいのか明確になっていない。
・興味、関心がない。
・現利用者は全員関心を持っているか不明。
・障がい特性もあり、事前予約が苦手な方が多く、参加者が当日まで判らない。
・就労に関わる訓練を行っているので、そのプログラム外のこと、区別化してあえて取り入れていない。

・利用者の方は芸術活動を目的に主施設を利用していない。
・グループホームなので、各入居者個人で好きなことをやったり、外出などもあるため合わせる時間がむずかしい。
・入居者同士不仲な方達がいるので、全体で取り組むのが難しい。
・現在、芸術に興味のある方がいない。
・障害者の集まりに抵抗を示す利用者が大半を占める。
・何をきっかけに、何を目的に、芸術活動に関心をもってもらえばいいのか（分からない）。
・人数がそろいにくい。
・個別支援計画へ入れるのが、難しい。
・具体的なイメージにとりかかれていない。
・やる意義を構築したとしても利用者の賛同を得るのは困難。
・グループホームにおいて芸術活動に取り組む必要を感じない。日中活動先で、そういったプログラムがあれば良いと思う。
・施設としてすべてに余裕がない。

5. 福祉施設へ芸術家が出向き、ワークショップ型の創作・表現活動を行うことができる場合、貴施設での実施を希望しますか。

希望する活動内容

【ジャンル】

・具体的には、やれるかどうか、コーディネーターと話す場を持ち、内容を決めたい。
・今までやったことのない分野をやってみたい
・いろんな体験をしてもらいたい。
・陶芸や音楽など道具が揃えにくいものは、施設のみでは実施しにくいのでやってみたい。
・スペースの問題で手工芸、彫刻など。
・場所が確保できたら 音楽、ダンス。
・書や音楽、手工芸、陶芸などに関心があるが、やってみようと思う利用者の人数をそろえるのが困難かもしれない。
・絵を描きたい、ピアノを習いたいという方がいるので、そういうことを教えて下さる方がいれば希望したい。ただ人数が揃うかは分からない。
・楽器を貸してもらえることができれば、習ってみたい。
・利用者の特性に合った内容であれば何でも。
・利用者に音楽が好きな方が多いので、音楽活動を行ってみたい
・絵画やダンス。
・伝統芸能や陶芸。
・版画や陶芸。
・実際に音楽、ダンスは講師としてお願いしている。
・絵画、書、音楽、ダンス、演劇、写真、映像、手工芸などの多様な内容、利用者が楽しめる企画。
・通所（生活介護の方が利用度が高いと思う）では習字、いけ花等の活動をしてみたい。
・やったことがないので絵画をやってみたい。
・絵画、音楽、ダンス、写真、手工芸、予算次第。
・以前は陶芸が出来る環境だったが、今は出来なくなってしまった。楽器にふれる事があまりないので楽器を何かしたい、手芸なふおも。

・ダンスを習いたい資金がない。
・ちぎり絵、折り紙、ヨガ。
・音楽、ダンス。
・絵の指導を受けたい。クラフトの指導を受けたい。
・絵画など。
・合唱、演劇。
・焼成釜はあるので、陶器のアクセサリ（ブローチやポタン）やガラスのフュージングにとりくんでみたい。
・絵画の好きな児童がいて能力を伸ばしたい。
・利用者より陶芸をやってみよう希望がある。
・音楽、舞踏など。
・ダンス、音楽、絵画、創作。
・絵画や写真、音楽などをやってみたい。
・絵を描くことが皆さん好きなのでやってみたい。
・こちらの作業所では陶芸と手工芸品の制作をやっているため、他の方の作品制作工程が見てみたい。
・書道はデイケアなどで経験済の人がいるので、取り組みやすいかもしれない。
・以前に音楽のワークショップを行った事がある。皆さん楽しそうだった。
・運動不足が常に課題なので、体をつかうダンスのようなプログラムがあるといい。
・普段から手芸などでフェルトやビーズなどを活動として行っている方もいるため、初心者でも分かりやすい作品があれば教えていただきたい。
・簡単にできる手芸等をやってみたい。
・音楽療法のみなので本格的な芸術の取り組みを増やしたい。
・木を素材とした創作製品作り。

【実施形態】

- ・知的、肢体において最重度の障がいを持つ方々が通所している施設。彼らが行えるものであれば形をかえてでも芸術に触れる機会を提供したい。工夫次第で何にでも体験したい。芸術家の方が来て一緒に絵を描いたり、創作する機会がもてると嬉しい。
- ・利用者の希望を聞いて内容を考えたい。
- ・単発的にでも新しい創作活動が出来れば皆さんにとっても刺激になるのでは。
- ・利用者のやったことのない活動を経験し、希望に近い作業を継続して行きたい。
- ・いろいろな方が参加出来る活動を行ってみたい。
- ・利用者の出来ることが増えて、それが充実感につながれば。音楽や絵はとりかかりやすい。車椅子の方も出来るものが良い。
- ・工賃につながるような活動があればやってみたい。
- ・生活に彩りを持ってほしい。
- ・時間内で完成することが出来、簡単な作業でありつつ子どもっぽくないもの。
- ・月に1回程、何か新しいことに挑戦してみたい。
- ・特にこれというものは無いが、刺激となるものがあると良い。
- ・単発での企画がいい。音楽を使ったものは参加してみた。
- ・具体的に希望するものはないが、利用者に合うものがあれば検討したい。
- ・やってみたいと思うが、ワークショップ型にメンバーが対応できるか不安。
- ・逆に団体ごとに出張して、他団体と共にワークショップの輪を広げて行きたい。

- ・バザーや文化祭などの催しの際は考えられる。
- ・芸術活動に対し、とても才能のある人がいる。ぜひその方の才能を伸ばし、その他のメンバーを刺激して欲しい。
- ・職員とは別の顔をもつ方が入ることで、「違う空間」にしたい。
- ・なんでもたのしそうなので、できるなら、やってみたい。
- ・レクリエーションとして、いろいろな物にふれてみたい
- ・活動したいと思うが、具体的なことまで考えていなく、何かヒントのような資料があれば助かる。
- ・余暇活動として実施できる活動内容を希望する。
- ・積極的に取り入れて、サービスを充実させたい。

【アーティストへの要望】

- ・障害者支援施設は障害の重い方が多く、時間をかければ興味を持つ利用者もいると思うが指導者に障害理解のあることが前提。
- ・専門家が来てくれる事でクオリティーの高い事や、やった事のない活動が出来るのではないかと期待できる。ただ、身体障害であっても出来る事を提案して欲しい。物づくりや映像関係（投影やテクノロジーで遊ぶようなもの）、いろいろな情報と刺激を感じてもらいたい。
- ・障害者の皆さんは何かの才能があると思うが、そのきっかけ作り。
- ・才能を花開かせるきっかけ作りがほしい。
- ・自主製品に生かせれば。
- ・手近な材料・素材で場当たり的に行っているのもっと広い視野・専門性をお持ちの方に、個々に合ったものをアドバイスして頂きたい。
- ・ボランティアで来てくれるなら。
- ・ボランティアや当施設の条件がそろった場合には。

「いいえ」と答えた場合の理由

【施設の状況】

- ・すでに行っている。
- ・時間的余裕がない。
- ・活動場所の確保が難しい。
- ・予算がない。
- ・個人的には希望したいが、関係者の理解を得られるか難しいところ。
- ・グループホームは生活の場。他人に入って欲しくない方、ゆっくり過ごしたい方様々。施設として活動することはない。
- ・グループホームは生活の場なので、できれば活動の場とは分けたい。どこか（たとえば活動ホームなど）の場を借りて、あるいは、そこで行われている趣味の活動への参加がよい。
- ・入居者が通所している日中活動場所の活動の一環として、絵を描いたり、写真を撮りに外出したりする活動があるため、ワークショップの型の創作・表現活動は日中活動の中で可能だと思う。
- ・就労に関わる訓練を行っているので、そのプログラム外のこと、区別化してあえて取り入れていない。

- ・複数のグループホームで合同して実現するなどの工夫も必要。
- ・子どもたちは、平日は通学しているため、余暇支援は土日祝日となる。入所施設はギリギリの職員配置なので、余暇支援は全くできていないのが実情。
- ・施設が小規模すぎるので、呼ぶことができない。
- ・開所2年目なので、まずは仕事内容の充実が第一。

【利用者の意向、障害特性】

- ・障害特性があるので合致する活動が少ない。
- ・職員は希望しているが、現在の利用者のニーズが低い。
- ・利用者の重度化に伴い、行える事に限りがある。
- ・人が集まるか不明。
- ・入居者の要望に応じて個別に対応してくれるのであればやりたい。
- ・変化に弱い利用者が多い。

【その他】

- ・出向いていただける芸術家がどのような認識をもっているか分からないと希望することは難しい。